

不帰の嶮 (かえらずのけん) 核心部

難所詳細ルートガイド

不帰の嶮は、北にある「天狗の大下り」取付き点 2,703m から、南にある日本三百名山「唐松岳」2,695mの間、浸食によって形成された峰々で、北からⅠ峰、Ⅱ峰北峰、Ⅱ峰南峰、Ⅲ峰 (A/B/C) が連なる、稜線の山々の総称です。

この連なりの最鞍部は日本 3 大キレットの一つ「不帰キレット」と呼ばれ、標高は 2,411m となっています。

わずかな距離の中で 300m の高低を繰り返す険しい岩峰です。



【注意点】 シーズンピークはクサリ場や岩場で対向者とすれ違うことが多くなりますが、登り優先にこだわることなく、譲り合いながらも柔軟に判断し、声かけ確認しながら進んでください。

待機は必ず山側へ体を避けてください。また人が多いと落石の危険が高まります。ヘルメットの着用は絶対ですが、もし不覚にも自分が落石をおこした時はできるだけ大きな声で「ラク！」と叫びましょう。

ルートはいわゆる破線ルートで一般登山道ではありません。ただクサリ場などもしっかりしているので、**基本的な三点確保、そして下りの背面下降**を心がけながら進めば大丈夫でしょう。岩にペイントされた目印、○や×そして→をしっかりと見極めて進んでください。間違えたと思ったらわかるところまで戻りましょう。

そして**悪い天気予報が出ている時は決して無理をしない**判断が必要です。基本的に天狗の大下りから不帰Ⅱ峰南峰間は撤退が難しくなりますので、天気が厳しいと思ったら躊躇無く戻ってください。また夏場は午後の雷を避けるためにも小屋の間をできるだけ午前中に通過するようにしてください。



唐松岳から北へ進むルートでは、Ⅱ峰南峰までは穏やかな稜線が続きます。Ⅱ峰は南北の双耳峰となっていて、北峰に向けて稜線のつり尾根の上を慎重に歩いて行きます。

南峰から 10 分程度、最後は岩場を巻いてⅡ峰北峰ピークにたどり着きます。

いよいよ核心部です。

ここから先は必ずヘルメットを着用してください。



Ⅱ峰東壁：核心部前半

はるか下の景色に気を取られることなく、目の前のステップを刻むことに集中して臨みます。



北峰直下のクサリ場

【核心部の概要】 不帰の嶮Ⅱ峰北峰から取付点までが不帰最難の核心部。ハイライトをコンパクトに解説します（前ページ下部が前半のルート）。

核心部序盤はクサリ場が続きます。北峰ピークからすぐに直降する長いクサリの後には、少し斜行する、岩場を巻くようなクサリが続いています。反対側から来る人がいる場合は、声を掛け合って待機場所を定めて降りていきます。急な下りでは背面下降を忘れずに。その先はバンドと呼ばれる岩棚をクサリを使って進みます。しばらくトラバースをして進むと、この辺りから岩場の下りが急になってきます。前半のポイントとなるハシゴでは背面下降でバランスを保ちながら降りていきます。しっかり3点確保しながら進みましょう。

岩場を降りきったところで一息つき、緊張をほぐします。水分も補給しておきましょう。目の前にⅡ峰の岩壁がそそり立っています。ここから山の側面をしばらくトラバースすると不帰の嶮最難所となります。



バンド（岩棚）のクサリ場



アングル橋上のクサリ場



最難所アングル橋

最後のクサリ場を降りると、Ⅱ峰取付点に出ます。途中少しの間があるものの、この斜面のルートには、ほぼ全面でクサリが付けられていることがわかります。決してクサリに頼り切ること無く、有効に活用して上り下りをしてください。

ここから先、Ⅰ峰をトラバースして天狗の大下りを登りきれば、天国のような白馬の稜線が待っています。



アングル橋直下のクサリ場

Ⅱ峰北壁：核心部後半

不帰の嶮最大の難所は短いながらも高度感を感じるため取り扱いが難しいクサリから始まります。取付のクサリから山の北壁面に抜けるため、鞍部まで視野に入って一瞬目がくらみますが、大事なことは目の前のクサリと岩、足の運びに集中すること。声をかけ、自分が降りていくことを伝え、背面姿勢でクサリを降り、直下にある渡しハシゴにとりつきます。ここがアングル橋となります。

橋を渡りここからは山壁伝いにクサリを確保しながらかなりの急斜面をやや斜行しながら降りていきます。斜面では常に対向者も確認ができるはずですので、それぞれどちらが先行するかを声かけしながら進んでください。

ルート表記は必ずしも正確では無く、年によって変わることもありますので、あくまで参考としてください。

天狗の大下り。

20mを超える長いクサリ場です。白馬側からでは最初の難所となり、唐松岳からは最後の頑張りどころ。登りと下りの順番を考慮し、背面姿勢で落石にも十分注意しながら行動します。

